

## 第 51 回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

ゼミ名	春日ゼミ	チーム名	UNICORN
タイトル	なぜ日本からユニコーン企業が生まれないのか		
テーマ群	b)財政・金融 e)産業・企業		
メンバー	伊藤祐太、丹羽陽輝、瀬古尚貴、高山知希、寺山恵一		
研究計画内容	<p>研究の背景とその目的</p> <p>近年注目が集まっているベンチャー企業、ユニコーン企業という言葉聞いたことがあるだろうか？ベンチャー企業とは、独自の技術やアイデアをもとに新しいサービスや商品を開発する未上場の少数精鋭企業のことを指し、主としてベンチャーキャピタルと呼ばれるハイリスク・ハイリターンを許容する投資家から資金提供を受けるという特徴がある。その中でも「ユニコーン企業」とは、企業評価額が創業 10 年以内に 10 億ドル以上になった超優良企業のことをいう。「ユニコーン企業」は世界全体で 800 社以上存在し、全体の約 7 割をアメリカが、約 2 割を中国が輩出している状況と比べると、日本国内には 20 社程度しか存在せず、少ないと言わざるを得ない。我々はこの点に疑問を感じ、特にベンチャー企業支援の相違に着目して研究を行うこととした。</p> <p>研究内容</p> <p>まず、ベンチャー企業が成長するために不可欠な支援状況、特に資金提供を行うベンチャーキャピタルの状況について調査する。まず、雑誌特集や政府資料等を調査し、①日本と世界各国のベンチャーキャピタルの数や資金の提供額の比較を行い、②ベンチャー企業を支援するための環境の違い等について整理する。さらに、神戸市役所新産業課等へのヒアリングを行い、③地元神戸で行っている施策や、神戸市発のベンチャー企業であるクラセル、コンパスに関する事例研究を実施する。最後に、④ベンチャー企業、ユニコーン企業を生み出すことによる経済効果について検討する予定である。</p> <p>期待される効果</p> <p>この研究を通じて、なぜ日本でユニコーン企業が生まれないかを整理し、これから企業数を増やすために必要な施策について考察する。現在注目されているバイオ、IT 産業では、成長したベンチャー企業を M&amp;A で買収することで技術力、競争力を高めている事例が増加している。ため、ユニコーン企業になれる潜在能力を秘めた日本発のベンチャー企業を生み出すための施策を地元神戸の視点から研究することで、日本の技術力を活かした経済発展を行うための基礎資料を提供できるのではないかと考えている。</p>		